



はんせい き きず しゅ と ほうえい ようさい
半世紀かけて築いた首都防衛の要塞

とう きょう わん よう さい あ わ せん そう い せき
東京湾要塞と安房の戦争遺跡



ちよっけい
直径が2mあり、
にほん ちよっと おお
日本で最も大き
い探照灯だった
そうよ。

りっぱ
立派なコンク
リートででき
ているね。



たいぶさみさき ち ぼ けんみなみほうそうし たんしょうとう し せつあと
①大房岬(千葉県南房総市)にある探照灯施設跡

てき かんせん とうきょうわん しんにやう せき たいぶさみさき ほうだい しょうめいしよ
敵の艦船が東京湾に侵入するのを防ぐため、大房岬には砲台と照明所がつくら
れた。9km先の海上を照らす巨大な探照灯(サーチライト)は地下に格納され、
さき かいじやう て きさだい たんしょうとう ちか かくのう
使用時はエレベーターで持ち上げられた。

東京を守るためにつくられた巨大な要塞

明治時代になると、国内のおもな海峡や港で大規模な要塞の建設が始まりました。要塞とは、戦略上重要な地点を外敵から守るために築かれた構造物やとりでのことです。

房総半島と三浦半島には、1880(明治13)年から約50年かけて東京湾要塞が建設されました。1923(大正12)年の関東大震災で多くの砲台などがこわれ、要塞の復旧が急がれました。東京湾の入り口にあたる館山市の洲崎や南房総市の大房岬にも砲塔砲台が築かれ、1932(昭和7)年に強力な要塞が完成しました。その周辺地域では、軍の機密を守るために住民は厳しく監視され、行動も規制されました。



砲台の位置と射程距離

それぞれの扇形の中心が砲台の設置場所。扇の角度と大きさは砲弾の飛び範囲を示す。



大房岬にある砲塔砲台跡

軍備の制限を目的としたワシントン海軍軍縮条約によって、使えなくなった巡洋艦の砲塔2基を陸上用に改造したものを岬の高台に設置した。現在は公園の花だんになっている。



大房岬にある遺跡は、千葉県の戦争遺跡としては初の文化財に指定されたんだ。

大房岬にある弾薬庫跡

砲塔砲台のそばに分厚いコンクリートで弾薬庫をつくり、その周囲には木を植えて、敵の飛行機から見つかりにくいようにした。



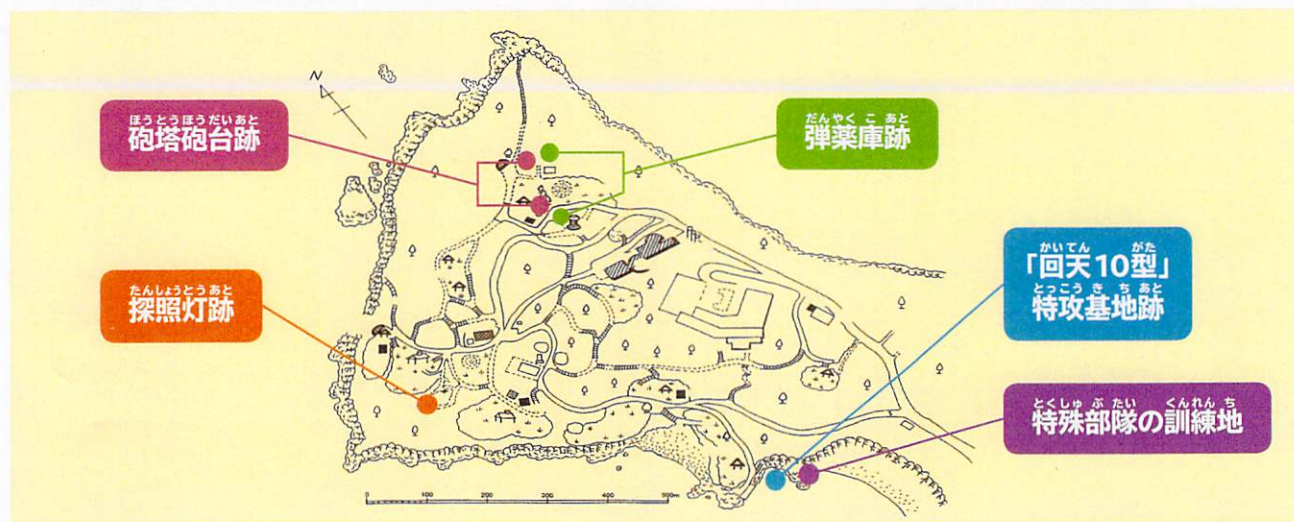
- 砲台：大砲を設置する台のこと。
- 砲塔：分厚い鉄などで大砲をおおい、さまざまな方向をねらえるように旋回する装置のこと。



大房岬の戦争遺跡をあるいてみよう

太平洋戦争(9ページ)の末期になると、日本本土の最終決戦に備えて、房総半島南部の安房地域には7万人近い軍隊が配備され、特別攻撃(特攻)基地もつくられました。現在、自然公園になっている大房岬には、要塞のほかにさまざまな戦争遺跡があります。

大房岬にある戦争遺跡



(千葉県大房岬自然公園提供)



「回天10型」特攻基地跡

「回天10型」は、人間が魚雷にまたがって操縦し、そのまま敵の艦船に体当たりで攻撃(特攻)する兵器。現在も海岸には、魚雷を発射するために使われたレールが残っている。



特殊部隊が訓練したがけ

山岡部隊と呼ばれる海軍の特殊部隊が、戦場で上陸が難しいといわれる場所でも上陸できるよう、けわしいがけを使って訓練を行った所。

100m近いがけを、どうやって登ったのだろう。



キーワード

魚雷：目標物に向かって水中を進む爆弾。

館山海軍航空隊の関連施設

1930(昭和5)年、海軍は館山湾の一角をうめたてた基地に館山海軍航空隊を開き、航空母艦のパイロットを養成しました。その後、陸上戦闘の訓練をする館山海軍砲術学校や、航空兵器の整備兵を養成する洲ノ埼海軍航空隊が開かれ、館山市は重要な軍事拠点になりました。



地下壕では、断層などの地層を見ることもできるんだ。

赤山地下壕跡 (館山市指定史跡)

館山海軍航空隊が使用した全長約1.6kmの巨大な地下壕。網の目状にほられた壕内には、発電所や司令部、無線通信施設などがあったといわれる。



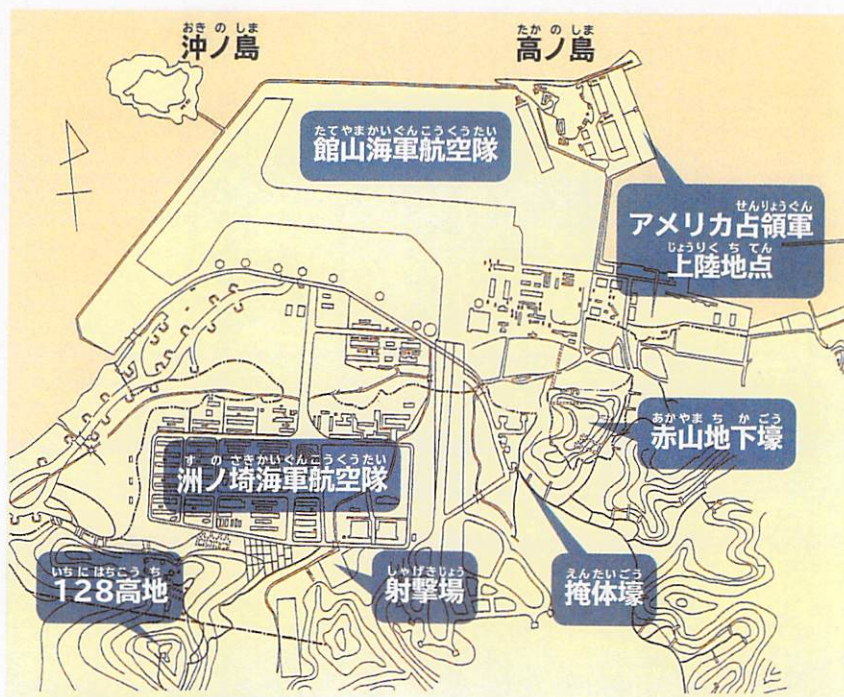
掩体壕

戦闘機を空襲から守るためにつくられた格納庫。



「128高地」地下壕跡

アメリカ軍の上陸に備えて、1944年につくられた地下壕。「戦闘指揮所」「作戦室」の額が残っている。一般公開はされていない。



館山航空基地計画図